

2016年度成蹊大学法科大学院第2期入学試験 刑法

【問題1】(配点：50点)

甲の罪責に関する以下の記述について、正しい場合には「正」と、誤っている場合には「誤」と、解答用紙の冒頭に記載した上、いずれの場合についても、その理由を簡潔に述べなさい(なお、「誤」と解答した場合で他の刑法上の犯罪が成立する場合等にはその罪名等も理由中で明らかにすること。)

- (1) 甲は、内容虚偽の旅券申請書を作成して、自己の居住するA県の旅券課担当者に対し上記旅券申請書を提出し、甲名義の旅券の交付申請を行った。A県の旅券担当者は、甲記載の旅券申請書記載の事実を真実と誤信した結果、内容虚偽の甲記載の旅券申請書どおりの記載がなされた旅券を甲に交付した。甲には、詐欺罪が成立するので、免状等不実記載罪は成立しない。
- (2) 甲は、B株式会社の代表取締役であるが、B株式会社が所有し、その旨登記されている土地について、甲自身の借金の返済に充てるため、権限がないのに、甲を債務者、Cを債権者とする抵当権を設定し、その旨の登記を了した(以下「第1行為」という)。その後、甲は、さらに、甲自身の借金の返済に充てるため、権限がないのに、当該土地をDに売却してその旨の登記を了した(以下「第2行為」という)。

甲が当該土地に抵当権を設定してその旨の登記を了する行為(第1行為)を行った時点で、甲には業務上横領罪が成立しており、甲が当該土地をDに売却してその旨の登記を了した行為(第2行為)について、B株式会社を被害者とする業務上横領罪は成立しない。

【問題2】(配点：50点)

以下の設例について、甲の罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点を除く。

甲は、その友人Aが家族全員とともに1週間の旅行に出ている留守であるとの情報を得て、A宅にある財物を窃取する目的で、A及びその家族が住居として使用しているA宅に侵入した。

A宅には、Aの家族は在宅していなかったが、甲が、A宅内の金庫を開けた矢先、A宅寝室内にいたAに発見され、Aは甲に対し「泥棒」と叫んだ。

甲は、捕まっては大変だと思い、Aに対し、所携の刃渡り7センチメートルのナイフを突き付けながら、「騒ぐと殺すぞ。」と申し向けたところ、Aは、慌てて寝室から飛び出し玄関から逃げだそうとした際転倒し、玄関脇の石に強く頭部をぶつけた結果、脳内出血を起こして死亡した。

甲は、Aの死亡を確認した後、金庫の中にあった宝石類を自己のポケットに入れた上、犯行の痕跡を消し去ろうと考えてA宅に火を放ち、A宅は全焼した。